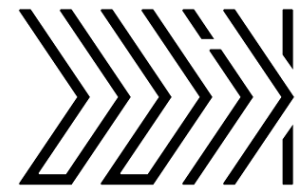


大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

研究課題名：神戸ユニオン教会における歴史資料の調査・分析および
観光資源としての活用

研究期間：2022年4月～2024年3月

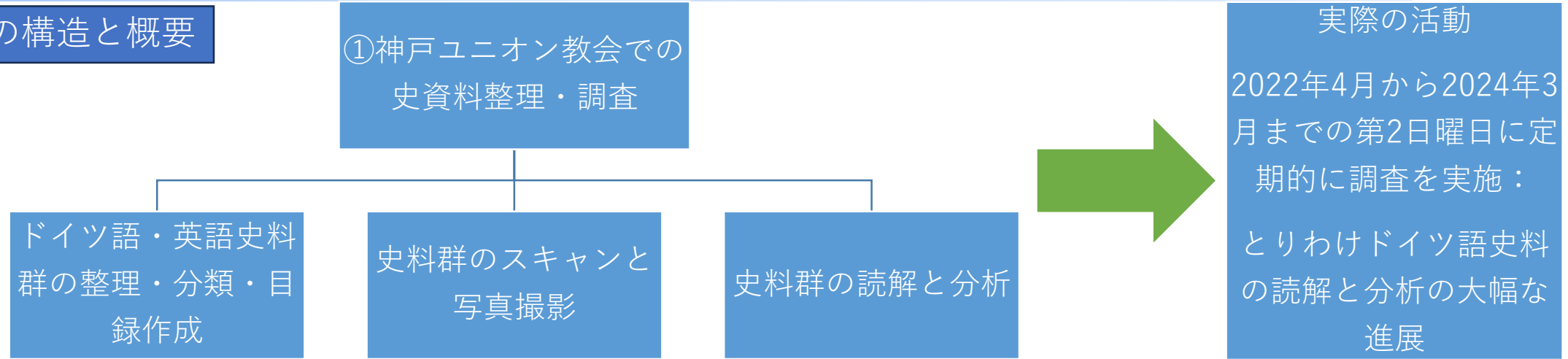
交付決定額(研究期間全体)：2,400千円

申請区分：一般助成型
課題番号：A22107

研究代表者：神戸大学大学院国際文化学研究科
講師 衣笠 太郎

1. 研究成果の概要

研究活動の構造と概要



実際の史資料整理の様子



1. 研究成果の概要

②企画展「港の見える教会から—多文化都市神戸とユニオン教会」

- ・開催期間：6月27日～9月27日 於：神戸大学社会科学系図書館2階展示ホール
- ・展示内容はこれまでの調査の成果を踏まえた解説と、教会から借りた物品などで構成。神戸新聞・朝日新聞による取材と記事化もあり、多くの来場者を得た。準備期間は2024年4月以降の2か月程度。

③オーストラリア・キャンベラでの史資料調査

- ・オーストラリア国立図書館に、日本の欧米系コミュニティに関する史資料を含む史料群（ハラルド・S・ウィリアムズ・コレクション）が所蔵されており、そのうち神戸やキリスト教宣教に関する史資料を収集するために調査滞在を実施した。

企画展（左・中央）およびオーストラリア国立図書館での調査の様子（右）





2. 研究成果の学術的意義や社会的意義

(A) 神戸の欧米系コミュニティに関する歴史研究の進展

- 一次史料および二次文献を用いた神戸ユニオン教会の成立と展開の調査により、神戸市域における欧米系コミュニティの形成過程
- 1870年代から1940年代における、神戸ユニオン教会創設およびそこを拠点としたプロテスタント聖職者および信徒の動向
- 上記2点の解明の進展により、今後の史資料整理・調査事業に向けた重要な基礎研究に寄与

(B) 神戸ユニオン教会の史料群の利用可能性向上

- ドイツ研究と史資料整理の専門家から構成されたチームによるドイツ語史料の目録化を実施
- すべてのドイツ語史料の内容を確認後、各ファイルに記載の史料の基礎情報（表題、作成年、形態など）をエクセルファイルに入力。52のファイルからなるドイツ語史料のうち約4分の1の基礎情報および詳細な目次の目録化を完了。さらに7ファイルの撮影も実施し、史料の電子化の試みを開始。 →全面的な電子化とその活用は今後の課題。

(C) 観光資源としての活用可能性向上

- 「神戸2025ビジョン」の基本目標3 多様な文化・芸術・魅力づくり
- 従来は情報が積極的に公開されなかった神戸ユニオン教会の歴史の解明により、神戸における欧米系プロテスタント住民をめぐる記憶と文化を、当事者とその子孫またその他の市民と共有することが可能になる。明石町の最初の教会堂や生田町の旧教会堂（現フロインドリーブ本店）に関する史料と記憶の歴史化は、国際都市神戸の文化の保存および発信を見据える上でも重要。
- 「神戸2025ビジョン」の基本目標7 多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化
- 神戸ユニオン教会による積極的な支援および信徒の整理事業参画は、同教会をめぐる記憶と議論が活性化に寄与している。特に企画展には、信徒以外の住民を含めて多数の市民が観覧に訪れ、教会の歴史に対する関心を喚起した。



3. 研究開始当初の背景

(A') 神戸をめぐる課題

- 開港以来の欧米系コミュニティ（ユダヤ人を含む）の歴史は、人文学による研究および観光の資源としての活用が不十分である。ドイツ系コミュニティに限定した場合にも、その実態を歴史学的に検討した研究はまだ少数と言える。

(B') 神戸ユニオン教会の史料群の重要性

- 当該教会には所蔵されている多数の史料は、神戸における欧米出身者のコミュニティ形成・維持の一端を知る上で第一級の史料である。この史料の歴史学もしくは人文社会科学の専門的見地に基づいた分析は、神戸の地域史の再検討する上で必要不可欠であり、資料整理および目録作成はその準備段階となる。

(C') 史料群の学術的な利用や観光資源としての活用

- 「神戸2025ビジョン」の基本目標3
 - 本研究で整理された史料の歴史学的（あるいは広く人文社会科学の知見から）分析は、神戸の欧米系外国人コミュニティに関する研究を格段に深化させることが期待される。
- 「神戸2025ビジョン」の基本目標7
 - 神戸における欧米系コミュニティの歴史的な実態の詳細な解明の進展は、観光事業への活用可能性がある。例えば史料そのものの市民向けの展示・公開講座、研究成果に依拠したガイドツアーなど、国際都市神戸の特色をより前面に押し出した事業展開を構想。



4. 研究の目的

本事業の目的

- 本事業の目的は、神戸ユニオン教会の史資料を整理・調査することで、多文化都市神戸に関する新たな地域史を描き出すことにある。とりわけアメリカ系やドイツ系などの欧米系コミュニティに関する歴史の解明に重点を置く。

神戸ユニオン教会の中心性

- 神戸ユニオン教会はキリスト教各宗派（中心はプロテスタント）が合同して結成した教会組織であり、すでに約150年の歴史を有する多文化都市神戸の中心的プロテスタント教会である。その設立以来、神戸のドイツ系を中心とした欧米圏出身の人々が集い、そのコミュニティの中心的な役割を担ってきた。
- 史料の中には1930年代から現在までの、神戸におけるドイツ系を含む信徒集団や欧米系コミュニティに関する文書が含まれている。それらを分析することで、20世紀において国内・国際情勢が変化する中で当該コミュニティの構成員がどのように考え、行動したのかということを知る重要な手がかりとなることが期待できる。



5. 研究の方法

主たる活動

- 神戸ユニオン教会での史資料の整理・目録作成・電子化
- 膨大な史料の整理および目録作成には多くの人員が必要となった。協力研究者としては、神戸大学名誉教授の天津留厚（ハプスブルク近代史）、大阪大学准教授の中村綾乃（ドイツ＝東アジア関係史）、神戸大学特命講師の井上舞（史料整理の専門家）が参画した。また以下の大学院生・ポスドクが整理事業に参加した：林祐一郎、中辻柚珠、吉田瞳、川内康史、新垣春佳（以上、京都大学）、市原晋平、山下泰生（以上、神戸大学）、西崎明美（大阪大学）、河合竜太（同志社大学）

活動概要

- 月に1回程度、その都度動員可能な人員で神戸ユニオン教会を訪問し、作業を実施した。
- 1回の訪問につき、5～6時間程度の作業を行った。1回の訪問で1000点の整理・目録登録が行えたとしても、少なくとも4～5万点の史料を終えるには数十回の訪問が必要となる。

ワーキンググループの形成

- 複数の研究者や大学院生でワーキンググループ「神戸市域における欧米系コミュニティ研究会」を形成。史資料の整理が主たる事業だが、それと並行して史資料の分析・検討を行う研究活動も実施した。参加者は上記と同様である。

国内外での史料調査

- 国内外での史料調査やインタビュー調査の実施。本年度では、オーストラリアのキャンベラにあるオーストラリア国立図書館に所蔵されている「ハロルド・S・ウィリアムズ・コレクション」の史料群を収集・調査した。今後は、神戸大学附属図書館の所蔵する「神戸開港文書」の調査も計画している。こうした史料を調査・分析し、神戸ユニオン教会所蔵史料との突き合わせを行うことで、より緻密な実証研究が実現可能となる。



6. 研究成果

①神戸ユニオン教会での史資料整理・調査

- (A) 神戸の欧米系コミュニティに関する歴史研究の進展
- (B) 神戸ユニオン教会の史料群の利用可能性向上
- (C) 観光資源としての活用可能性向上

②企画展「港の見える教会から—多文化都市神戸とユニオン教会」

- 本事業の研究成果の発信方法として非常に大きな役割を担った。展示内容そのものの充実のみならず、新聞などで広報されたことで、神戸や近畿圏の多くの地域住民に本事業の意義を浸透させることができた。
- 神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート記事：http://promis.cla.kobe-u.ac.jp/kinugasa_kikakuten/
- 神戸新聞記事：<https://www.kobe-np.co.jp/news/kobe/202307/0016535233.shtml>
- 朝日新聞（阪神版）記事：
https://www.asahi.com/articles/ASR7D04X1R73PIHB011.html?fbclid=IwAR0pw_gy1zMg129L2P0CjS80L2WMBSNRQfcP7hCEF_2Ilxv3wdG_6fdVjzs

③オーストラリア・キャンベラでの史資料調査

- オーストラリア国立図書館のハラルド・S・ウィリアムズ・コレクションにて、神戸ユニオン教会と神戸の欧米系コミュニティに関する史料群を収集した。神戸ユニオン教会の史料と突き合わせることでより複眼的な歴史把握を可能にする史料群。本事業の学術的可能性を大きく押し上げた。



6. 研究成果

今後の課題

- 整理・調査事業の深化：神戸ユニオン教会に所蔵されている残りの史資料の整理と調査が挙げられる。特にドイツ語史料の10倍程度の分量があるとされる英語史料群はいまだ多くが手つかずであり、研究分担者や大学院生などの手を借りて整理・調査を進めていく。
- 研究成果のさらなる公開：学術論文の執筆と投稿。学会発表としては2024年度の阪神独文学会にて神戸ユニオン教会に関するシンポジウムを実施することが決定済み。
- 国内外での追加調査や展示会の実施：神戸ユニオン教会の旧教会堂である現フロインドリーブでの展示会やイベントの実施などが想定される。また英語教会の調査が進展すれば英語史料を用いた展示会の開催も可能となるため、そうした企画も視野に入れつつ、今後の計画を立てていきたい。
- フーバー研究所との連携：現在、スタンフォード大学フーバー研究所（アメリカ）と神戸大学の間での学術的連携が協議されている。同研究所では世界中の膨大な史料を管理・公開しており、今回の連携事業の中で神戸ユニオン教会史料のデジタル公開も視野に入れる。

以上のさらなる事業継続が計画されているため、令和6年度における大学発アーバンイノベーション神戸への再度の申請を行う。

- Generalkonsulat der Bundesrepublik Deutschland Osaka-Kobe, *Hundert Jahre Deutsches Konsulat Kobe 1874-1974*, Generalkonsulat der Bundesrepublik Deutschland Osaka-Kobe, 1974.
- Gemeindegemeinderat, *Jubiläumsschrift 100 Jahre*, Tokyo: Evangelische Gemeinde Deutscher Sprache Tokyo-Yokohama, 1985.
- 石田勇治・佐藤公紀・柳原伸洋・宮崎麻子・木村洋平（編）『ドイツ文化事典』丸善出版。
- 神戸市域における欧米系コミュニティ研究会『企画展「港の見える教会から—多文化都市神戸とユニオン教会」』（企画展パンフレット）、2023年。
- シモナス・ストレルツォーバス（赤羽俊昭訳）『第二次大戦下リトアニアの難民と杉原千畝——「命のヴィザ」の真相』明石書店、2020年。
- 中村綾乃『東京のハーケンクロイツ』白水社、2010年。
- 日本におけるドイツ宣教史研究会編『日本におけるドイツ—ドイツ宣教史百二十五年』新教出版社、2010年。
- 林祐一郎「ドイツ系プロテスタント教会による日本伝道と関西—普及福音新教伝道会の宣教師エミール・シラーを中心に—」『フェネストラ—京大西洋史学報—』第7号、2023年、35-43頁。